



東北大学

報道機関各位

平成24年2月20日

国立大学法人東北大学

次期部局長予定者の内定について

東北大学は、標記について、下記のとおり内定しましたのでお知らせします。

(1) 次期部局長（発令予定日：平成24年4月1日）

氏名	新任役職名	任期	現役職名	
本郷一夫	教育学研究科長	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	教育学研究科・教授	新任
大内憲明	医学系研究科長	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	医学系研究科・教授	新任
佐々木啓一	歯学研究科長	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	歯学研究科長	再任
金井浩	工学研究科長	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	工学研究科・教授	新任
山谷知行	農学研究科長	平成24年4月1日 ～平成25年3月31日	農学研究科長	再任
亀山充隆	情報科学研究科長	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	情報科学研究科長	再任
田路和幸	環境科学研究科長	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	環境科学研究科長	再任
渡部信一	教育情報学研究部長	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	教育情報学研究部長	再任
新家光雄	金属材料研究所長	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	金属材料研究所長	再任
佐竹正延	加齢医学研究所長	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	加齢医学研究所・教授	新任

(2) 退任予定部局長

宮腰英一（教育学研究科長）、山本雅之（医学系研究科長）、内山 勝（工学研究科長）、福田 寛（加齢医学研究所）の各氏は、本学の部局長を任期満了により退任される予定であります。

※ 添付：次期部局長候補者略歴等

【本件に関する問い合わせ先】

東北大学総務部広報課広報係

電話 022-217-4816

教育学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) ほんごう かずお

候補者名：本 郷 一 夫

任 期：平成24年 4月 1日～平成26年 3月31日（新任）

生年月日：昭和30年 1月 4日（57歳）

出 身 地：埼玉県さいたま市

部 局 名：教育学研究科

所属専攻・学科名：総合教育科学専攻

講座（部門）名：人間発達臨床科学

専門分野（専攻）名：発達心理学

略 歴：

昭和59年 3月 東北大学大学院教育学研究科教育心理学専攻
博士課程後期3年の課程 単位修得退学

昭和59年 4月 東北大学教育学部助手

平成 2年 9月 鳴門教育大学学校教育学部講師

平成 4年 4月 鳴門教育大学学校教育学部助教授

平成 8年 8月 東北大学教育学部助教授

平成12年 4月 東北大学大学院教育学研究科助教授

平成14年 4月 東北大学大学院教育学研究科教授

主な研究業績：

本郷一夫 1996 2歳児集団における「異議」に関する研究 —子どもの年齢と年齢差の影響について— 教育心理学研究, 第44巻, 435-444.

本郷一夫他 2006 3歳児健康診査におけるフォローアップ児の特徴に関する研究 —1歳6か月健康診査、3歳児健康診査時における問診票と簡易発達検査との関連— 小児保健研究 第65巻第6号, 806-813

本郷一夫他 2007 保育の場における「気になる」子どもの理解と対応に関するコンサルテーションの効果」LD研究 第16巻第3号, 254-264

著 書：

本郷一夫編著 2008 『子どもの理解と支援のための発達アセスメント』 有斐閣

本郷一夫編著 2010 『「気になる」子どもの保育と保護者支援』 建帛社

本郷一夫・金谷京子編著 2011 『臨床発達心理学の基礎』 ミネルヴァ書房

医学系研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) (おおうち のりあき)

候補者名：大内 憲 明

任 期：平成24年 4月 1日～平成26年 3月31日 (新任)

生年月日：昭和26年 5月 3日 (60歳)

出身地：福島県飯舘村

部 局 名：病院

所属専攻・学科名：がんセンター

講座(部門)名：外科病態学講座(腫瘍外科学分野) (兼担)

専門分野(専攻)名：外科学、腫瘍外科学、がん疫学、ナノ医科学

略 歴：

昭和53年 3月	東北大学医学部卒業
昭和59年 3月	東北大学大学院医学研究科修了(医学博士)
昭和59年 9月	米国N I H (客員研究員)
昭和63年 7月	東北大学医学部附属病院助手
平成 7年11月	東北大学医学部附属病院講師
平成11年 9月	東北大学大学院医学系研究科・教授
平成14年11月	東北大学医学部附属病院副病院長 (期間：平成16年11月まで)
平成18年 4月	厚生労働省第3次対がん総合戦略研究事業 「がん対策のための戦略研究」リーダー (期間：平成23年 3月まで)
平成23年 4月	東北大学病院がんセンター長 (期間：平成24年 3月まで)

主な研究業績：乳癌の生物学的特性の解明、整容性を重視した乳房温存手術の開発、マンモグラフィ検診の普及、ナノ・バイオの医療応用、超音波併用乳癌検診の有効性の研究 (J-START)

受賞歴：第3回、第8回黒川利雄がん研究基金賞

第21回三越医学賞

第27回手術手技研究会奨励研究賞

第1回朝日がん大賞

日本医師会医学研究助成費賞

著 書 :

主な著書

1. Ohuchi N, et al (total 7, 1st). Differential expression of DF3 antigen between papillary carcinoma and benign papillary lesions of the breast. In: R Ceriani (ed), *Breast Cancer Immunodiagnosis and Therapy*. Plenum Press, New York, 1989, pp. 183-192.
2. Ohuchi N, et al (total 4, 1st). Advances in diagnosis of breast cancer: mammography for screening and MRI for breast-conserving surgery. R. Ros, T Kakizoe (eds.) "Innovative achievements in cancer imaging". The 33rd International Symposium of the Princess Takamatsu Cancer Research Fund. pp. 30-34, 2003.
3. Ohuchi N, et al (total 7, 1st). Development of bio-imaging with functional nano-objects. In: Yamaguchi T (ed.), *Nano-Biomedical Engineering 2009, Proceedings of the Tohoku University Global Centre of Excellence Programme*, Imperial College Press, pp. 361-372, 2009.
4. 大内憲明 (編)。実践デジタルマンモグラフィ：基礎から診断まで、中山書店、東京、2006
5. 大内憲明 (編)。乳癌：基礎・臨床研究のアップデート、日本臨床社、東京、2007
6. 大内憲明 (編)。マンモグラフィによる乳がん検診の手引き-精度管理マニュアル、第5版、日本医事新報社、東京、2011

主な原著論文

1. Ohuchi N, et al (total 3, 1st). Possible cancerous change of intraductal papillomas of the breast: a 3-D reconstruction of 25 cases. *Cancer*, 54: 605-11, 1984.
2. Ohuchi N, et al (total 6, 1st). Expression of the 21,000 molecular weight ras protein in a spectrum of benign and malignant mammary tissues. *Cancer Research*, 46:2511-19, 1986.
3. Ohuchi N, et al (total 9, 1st). Enhanced expression of c-Ha-ras p21 in stomach adenocarcinomas defined by immunoassays using monoclonal antibodies and in situ hybridization. *Cancer Research*, 47:1413-20, 1987.
4. Ohuchi N, Page DL, et al (total 6, 1st). Expression of tumor-associated antigen (DF3) in atypical hyperplasias and in situ carcinomas of the breast. *J Natl Cancer Inst*, 79:109-17, 1987.
5. Ohuchi N, Wunderlich D. et al (total 6, 1st). Differential expression of CEA in early gastric adenocarcinomas versus benign gastric lesions defined by monoclonal antibodies. *Cancer Research*, 47:3565-71, 1987.
6. Ohuchi N, Simpson JF, et al (total 4, 1st). Complementation of anti-CEA and anti-TAG-72 monoclonal antibodies in reactivity to human gastric adenocarcinomas. *Int J Cancer*, 40:726-33, 1987.
7. Ohuchi N, et al (total 3, 1st). Management of ductal carcinoma in situ with nipple discharge. *Cancer* 74:1294-1302, 1994.
8. Kong D, Ohuchi N, et al (total 18, 10th) PTEN/MMAC1 is frequently mutated in primary endometrial carcinomas. *Nature Genetics*, 17: 143-44, 1997
9. Amano G, Ohuchi N, et al (total 5, 2nd) Correlation of 3D-MRI with meticulous histopathologic map concerning carcinoma extension in 58 breast cancer patients. *Breast Cancer Res Treat*, 60:43-55, 2000.
10. Takeda M, Ohuchi N, et al (total 8, last). Biophoton detection as a novel technique for cancer imaging. *Cancer Science*, 95 (8): 656-61, 2004
11. Nakajima M, Ohuchi N, et al (total 5, last) Nano-sized fluorescent particle as a new tracer for sentinel node detection. *Cancer Science*, 96 (6): 353-56, 2005.
12. Ohnuki K, Ohuchi N. et al (total 6, last). Cost-effectiveness analysis of screening modalities for breast cancer in Japan with special reference to women aged 40-49. *Cancer Science*, 97: 1242-47, 2006
13. Li-Shishido S, Ohuchi N, et al (total 5, last). Reduction in nonfluorescence state of quantum dots on an immunofluorescence staining. *Biochem Biophys Res Com*, 351 (1): 7-13, 2006
14. Tada H, Ohuchi N, et al (total 4, last). In vivo real-time tracking of single quantum dots conjugated with monoclonal anti-HER2 antibody in tumors of mice. *Cancer Research*, 67 (3): 1138-1144, 2007.
15. Kawai M, Ohuchi N, et al (total 9, last). Effect of screening mammography on breast cancer survival in comparison to other detection methods: a retrospective cohort study. *Cancer Science*, 100 (8): 1479-84, 2009
16. Gonda K, Ohuchi N, et al (total 4, 3rd). In vivo nano-imaging of membrane dynamics in metastatic tumor cells using quantum dots. *J Biol Chem*, 285: 2750-2757, 2010
17. Hikage M, Ohuchi N, et al (total 9, last), Nano-imaging of the lymph network structure with quantum dots. *Nanotechnology*, 21 (18): 185103. Epub 2010 Apr 14.
18. Saika K, Ohuchi N, et al (total 4, 3rd). Breast cancer screening. *Ann Intern Med*. 153 (9): 618-19, 2010.
19. Ohuchi N, et al (total 6, 1st). Randomized Controlled Trial on Effectiveness of Ultrasonography Screening for Breast Cancer in Women Aged 40-49 (J-START): Research Design. *Jpn J Clin Oncol*. 41: 275-77, 2011.
20. Hamada Y, Ohuchi N, et al (total 8, last). In vivo imaging of the molecular distribution of the VEGF receptor during angiogenesis in a mouse model of ischemia. *Blood*. 2011 Sep 29; 118 (13): e93-e100.

歯学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) ささき けいいち

候補者名: 佐々木 啓 一

任 期: 平成24年4月1日～平成26年3月31日(再任)

生年月日: 昭和31年9月24日(55歳)

出身地: 宮城県仙台市

部局名: 大学院歯学研究科

所属専攻・学科名: 歯科学専攻

講座(部門)名: 口腔機能形態学講座口腔システム補綴学分野

専門分野(専攻)名: 歯科補綴学

略 歴:

昭和56年3月	東北大学歯学部卒業
昭和60年3月	東北大学大学院歯学研究科博士課程修了
昭和60年4月	東北大学歯学部助手
平成3年10月	東北大学歯学部講師
平成6年4月	東北大学歯学部助教授
平成12年2月	東北大学歯学部教授
平成12年4月	東北大学大学院歯学研究科教授
平成16年4月	東北大学大学院歯学研究科副研究科長 (期間:平成21年1月31日まで)
平成21年2月	東北大学病院附属歯科医療センター長 (期間:平成22年3月31日まで)
平成21年2月	東北大学病院総括副病院長 (期間:平成22年3月31日まで)
平成22年4月	東北大学大学院歯学研究科長 (期間:平成24年3月31日まで)

【主な研究業績】

- ・欠損歯列補綴・顎顔面再建治療における新生体材料の開発と応用、新インターフェース創成に関する研究
- ・生体内測定に基づく部分床義歯補綴・インプラント補綴に関する生体力学的検討
- ・部分床義歯補綴・インプラント補綴に関わる骨改造機転に関する核医学的、組織学的、分子生物学的研究
- ・欠損補綴・顎顔面再建治療における移植・再生の応用に関する研究
- ・部分床義歯・インプラント義歯の長期予後に関する研究

【受賞歴】

- ・日本顎口腔機能学会 学会賞(2008年4月)

【著書】

- ・パーシャルデンチャーテクニック【第4版】(平成20年9月10日)
- ・スタンダード部分床義歯補綴学(平成18年3月20日)
- ・よくわかる口腔インプラント学(平成17年5月15日)
- ・目で見る咬合の基礎知識(平成14年6月25日)
- ・有病者・高齢者歯科治療マニュアル(平成8年2月10日)

工学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) かない ひろし

候補者名：金井 浩

任期：平成24年 4月 1日～平成26年 3月31日（新任）

生年月日：昭和33年11月29日（53歳）

出身地：長野県松本市

部局名：工学研究科

所属専攻・学科名：電子工学専攻・情報知能システム総合学科

講座（部門）名：電子制御工学講座

専門分野（専攻）名：医用超音波工学

略 歴：

昭和61年	3月	東北大学大学院工学研究科博士課程修了
昭和61年	4月	東北大学情報処理教育センター 助手
昭和64年	1月	東北大学工学部 助手
平成 2年	3月	東北大学工学部 講師
平成 4年	6月	東北大学工学部 助教授
平成 9年	4月	東北大学大学院工学研究科 助教授
平成13年	3月	東北大学大学院工学研究科 教授（現在に至る）
平成18年	11月	東北大学 総長特任補佐（平成22年3月まで）
平成20年	4月	東北大学大学院医工学研究科 教授 兼担（現在に至る）
平成21年	4月	東北大学大学院工学研究科 副研究科長（現在に至る）

主な研究業績：

超音波計測工学とその医学応用(特に循環器系疾患)への研究等に従事。超音波による高精度非侵襲的計測法の研究開発により、(1) ヒト心臓壁で微小振動の発生と伝播の生理現象を発見、(2) 1拍内に動脈壁に微小な厚み変化が生じる生理現象を発見し、壁硬さを求め、動脈硬化診断装置の実用化。

受賞歴：

石川賞(昭62)、IBM科学賞(平13)、科学計測振興会賞(平15)、文部科学大臣表彰 科学技術賞研究部門(平17)、日本超音波医学会技術賞(平17)、市村学術賞(平19)、日本超音波医学会松尾賞(平20)、中谷賞(平20)、日本超音波医学会・日本音響学会・超音波シンポジウムなど論文賞(平7,8,10,12,19,22)。

著 書：

『C による情報処理入門』昭晃堂,共著

『音・振動のスペクトル解析』コロナ社,単著

『音・振動による診断工学』コロナ社,共著

“Ultrasonic Tissue Characterization” Springer-Verlag, 共著 ほか

農学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) やま や とも ゆき
候補者名： 山 谷 知 行
任 期： 平成24年4月1日～平成25年3月31日 (再任)
生年月日： 昭和25年2月5日 (62歳)
出身地： 青森県青森市
部 局 名： 農学研究科
所属専攻・学科名： 附属先端農学研究センター
講座 (部門) 名： 植物資源開発部門
専門分野 (専攻) 名： 植物分子生理学

略 歴：

昭和47年3月 東北大学農学部卒業
昭和47年4月 東北大学大学院農学研究科修士課程入学
昭和49年3月 同修了
昭和49年4月 東北大学大学院農学研究科博士課程進学
昭和52年3月 同修了
昭和55年12月 岡山大学農業生物研究所助手
昭和63年1月 東北大学農学部助教授
平成4年12月 東北大学農学部教授
平成11年4月 東北大学大学院農学研究科教授
平成21年4月 東北大学評議員 併任
(期間：平成22年3月まで)
平成21年4月 東北大学大学院農学研究科副研究科長 併任
(期間：平成22年3月まで)
平成21年4月 東北大学大学院農学研究科附属先端農学研究センター長 併任
(期間：平成22年3月まで)
平成22年4月 東北大学大学院農学研究科研究科長 併任
(期間：平成24年3月まで)

主な研究業績：

イネにおける窒素利用の分子基盤の構築

受 賞 歴：

ヨシ・エス・クノ賞 (1971年)
日本土壌肥料学会奨励賞 (1983年)
日本土壌肥料学会賞 (1999年)

著 書：

朝倉植物生理学講座②「代謝」(編著) 朝倉書店 2001年
"Nitrogen Acquisition and Assimilation in Higher Plants" (共著)
Kluwer Academic Publisher The Netherlands 2004年

昭和62年5月28日 Distinctive Contribution Award
IEEE Technical Committee on Multiple-Valued Logic

昭和62年5月28日 Outstanding Paper Award
IEEE Technical Committee on Multiple-Valued Logic

平成元年5月19日 論文賞 (社) 電子情報通信学会

平成元年5月31日 Outstanding Paper Award
IEEE Technical Committee on Multiple-Valued Logic

平成2年11月2日 技術賞 (社) 日本ロボット学会

平成9年1月1日 IEEE Fellow Award IEEE

平成14年6月26日 第9回デザイン・オブ・ザ・イヤー デバイス部門審査員特別賞 半導体産業新聞・産業タイムズ社

平成18年9月20日 電子情報通信学会フェロー (社) 電子情報通信学会

著 書 :

- ・デジタルコンピューティングシステム 昭晃堂 1999年
- ・多値情報処理 昭晃堂 1989年 (共著)

環境科学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな)

候補者名：田^{とう}路^じ和^{かず}幸^{ゆき}

任 期：平成24年 4月 1日～平成26年 3月31日（再任）

生年月日：昭和28年 5月 7日（58歳）

出身地：兵庫県

部 局 名：大学院環境科学研究科

所属専攻・学科名：環境科学専攻

講座（部門）名：自然共生システム学講座

専門分野（専攻）名：環境共生機能学分野

略 歴：

昭和52年	3月	学習院大学理学部卒業
昭和54年	3月	学習院大学大学院自然科学研究科修士課程修了
昭和58年	3月	理学博士（学習院大学）取得
昭和59年	11月	岡崎国立共同研究機構分子科学研究所助手
平成 3年	3月	東北大学工学部助教授
平成 9年	4月	東北大学大学院工学研究科助教授
平成11年	4月	東北大学大学院工学研究科教授
平成15年	4月	東北大学大学院環境科学研究科教授
平成20年	4月	東北大学教育研究評議会評議員（平成22年3月まで）
平成22年	4月	東北大学大学院環境科学研究科長（平成24年3月まで）

主な研究業績：

- Boron-Assisted Transformation to Rod-Like Graphitic Carbons from Multi-Walled Carbon Nanotubes in Boron-Mixed Multi-Walled Carbon Nanotube Solids [ACS Applied Materials & Interfaces, 2011, 3, 2431-2439] Yoshinori Sato, Hikaru Nishizaka, Kenichi Motomiya, Go Yamamoto, Akira Okubo, Hisamichi Kimura, Mikio Ishikuro, Kazuaki Wagatsuma, Toshiyuki Hashida, Kazuyuki Tohji
- Influence of carbon structure of the anode on the production of graphite in single-walled carbon nanotube soot synthesized by arc discharge using a Fe-Ni-S catalyst [Carbon, 2011, 49, 3607-3614] Hikaru Nishizaka, Masaru Namura, Kenichi Motomiya, Yasumasa Ogawa, Yasuo Udaga, Kazuyuki Tohji,

Yoshinori Sato

- Influence of the structure of the nanotube on the mechanical properties of binder-free multi-walled carbon nanotube solids [Carbon, 2012, 50, 34-39]
Yoshinori Sato, Hikaru Nishizaka, Kenichi Motomiya, Go Yamamoto, Akira Okubo, Hisamichi Kimura, Mikio Ishikuro, Kazuaki Wagatsuma, Toshiyuki Hashida, Kazuyuki Tohji

受賞歴：日本化学会若い世代の講演会賞、日本金属学会技術開発賞、
日本電子顕微鏡学会写真コンクール銀賞
平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）

著書：井奥 洪二・石田 秀輝・彼谷 邦光・高橋由貴彦・田路 和幸・安田 喜憲【著】
『新しいくらしかたのか・た・ち』（芸立出版（2007-09-14出版））

教育情報学研究部長候補者の略歴等

(ふりがな) わたべ しんいち

候補者名：渡部 信一

任期：平成24年 4月 1日～平成26年 3月31日（再任）

生年月日：昭和32年 6月 12日（54歳）

出身地：宮城県仙台市

部局名：教育情報学研究部

所属専攻・学科名：IT教育認知科学研究部門

専門分野（専攻）名：認知科学

略歴：

昭和58年	3月	東北大学大学院教育学研究科博士課程前期2年の課程修了 (教育心理学専攻)
昭和58年	4月	国立療養所宮城病院
昭和63年	1月	福岡教育大学助手 教育学部附属障害児治療教育センター
平成元年	4月	同 講師 同
平成5年	4月	同 助教授 同
平成10年	4月	東北大学 助教授 教育学部
平成12年	4月	同 助教授 大学院教育学研究科
平成14年	4月	同 教授 大学院教育情報学研究部
平成20年	4月	同 大学院教育情報学研究部長 (平成22年3月まで)
	同	同 大学院教育情報学教育部長 (平成22年3月まで)
平成22年	4月	同 大学院教育情報学研究部長 (平成24年3月まで)
	同	同 大学院教育情報学教育部長 (平成24年3月まで)

主な研究業績：

渡部信一 (2006)：高度情報化時代における自閉症教育. 教育学研究. 73 (2), 137-147.

渡部信一 (2010)：高度情報化時代における「教育」再考—認知科学における「学び」論からのアプローチ—
教育学研究. 77 (4), 14-26.

著書：

渡部信一編 佐伯胖監修 (2010)：「学び」の認知科学事典. 大修館書店.

渡部信一監修 東北大学大学院教育情報学研究部編 (2011)：高度情報化時代の「学び」と教育.
東北大学出版会.

金属材料研究所長候補者の略歴等

(ふりがな) にいのみ みつお

候補者名： 新家 光雄

任 期： 平成24年4月1日～平成26年3月31日（再任）

生年月日： 昭和26年3月7日（61歳）

出身地： 愛知県西尾市

部 局 名： 金属材料研究所

所属専攻・学科名： ー

講座（部門）名： 生体材料学研究部門

専門分野（専攻）名： 生体材料学

略 歴：

昭和48年 3月 名古屋大学工学部金属学科及び鉄鋼工学科卒業
昭和50年 3月 名古屋大学大学院工学研究科金属工学及び鉄鋼工学専攻修士課程修了
昭和53年 3月 名古屋大学大学院工学研究科金属工学及び鉄鋼工学専攻博士課程単位修得
昭和54年 5月 豊橋技術科学大学工学部 文部技官
昭和54年 7月 名古屋大学大学院工学研究科金属工学及び鉄鋼工学専攻博士課程修了
昭和55年 4月 豊橋技術科学大学工学部 助手
平成 元年 4月 豊橋技術科学大学工学部 助教授
平成 7年 4月 豊橋技術科学大学工学部 教授
平成17年10月 東北大学金属材料研究所 教授
平成20年 4月 東北大学総長特任補佐（平成21年11月まで）
平成21年11月 東北大学金属材料研究所長併任（平成24年3月まで）
〃 東北大学学際科学国際高等研究センター長併任（平成25年3月まで）

主な研究業績： 生体用および航空機用チタン合金の研究・開発
生体用金属系材料の生体親和性に関する研究
歯科用低貴金属合金の力学機能とマイクロ構造に関する研究
チタン合金の歯科精密鑄造技術の研究・開発
高力アルミニウム合金の強靱化に関する研究
軽金属材料の加工熱処理によるマイクロ組織制御と強靱化に関する研究 など

受 賞 歴： 昭和61年11月：軽金属学会論文賞（その後1回受賞）
平成 6年 4月：日本鉄鋼協会西山記念賞
平成12年12月：日本チタン協会技術賞
平成15年10月：日本金属学会論文賞（その後2回受賞）
平成17年 5月：軽金属学会功績賞
平成19年12月：Lee Hsun Lecture Award

平成21年 3月：日本金属学会学術功労賞
平成22年 3月：日本金属学会谷川・ハリス賞
平成23年11月：日本バイオマテリアル学会学会賞
平成23年 3月：日本金属学会増本量賞（決定） など

- 著 書：
- (1) 金属便覧改訂6版, 丸善(株), 2000, (共著)
 - (2) Biomaterials in Orthopedics, Marcel Dekker, INC, 2004, (共著)
 - (3) Encyclopedia of Biomaterials and Biomedical Engineering, Marcel Dekker, INC, 2006, (共著)
 - (4) Advanced in Materials Research 10, Frontiers in Materials Research, 2008, (共著)
 - (5) Biomaterials in Asia, World Scientific Publishing, Singapore, 2008, (共著)
 - (6) 新材料・新素材シリーズ チタンの基礎・加工と最新応用技術, 監修：新家光雄, シーエムシー出版, 2009, (監修・共著)
 - (7) 医療用金属材料概論, 日本金属学会, 2010, (共著)
 - (8) Interface Oral Health Science 2009, Springer, 2010, (共著)
 - (9) Metals for Biomedical Devices, Edited by Mitsuo Niinomi, CRC Press/Woodhead Publishing Limited, 2010, (監修・共著)
 - (10) Biomaterials Science and Engineering, InTech-Open Access Publisher, 2011, (共著) など

加齢医学研究所長候補者の略歴等

(ふりがな) さ たけ まさ のぶ

候補者名：佐 竹 正 延

任 期：平成24年4月1日～平成26年3月31日（新任）

生年月日：昭和26年2月28日（61歳）

出 身 地：福島県福島市

部 局 名：加齢医学研究所

所属専攻・学科名：

講座（部門）名：加齢制御研究部門 免疫遺伝子制御研究分野

専門分野（専攻）名：分子生物学

略 歴：

昭和54年	3月	東北大学大学院医学研究科博士課程修了
昭和60年	1月	京都大学ウイルス研究所助手
平成元年	11月	京都大学ウイルス研究所助教授
平成5年	8月	東北大学加齢医学研究所教授
平成16年	4月	東北大学加齢医学研究所附属医用細胞資源センター長 (平成18年3月まで)
平成18年	4月	東北大学加齢医学研究所副研究所長 (平成24年3月まで)

主な研究業績：Runx 転写因子の血液・免疫学的研究。小胞輸送の調節因子、SMAP 遺伝子ファミリーの発見。

受賞歴：なし

著 書：“加齢医学” 帯刀益夫・佐竹正延（編）東北大学出版会 平成19年